報道資料

くらしの中に
総務省
MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

令和元年 12 月 31 日

統計トピックスNo. 122

「子年生まれ」と「新成人」の人口

― 令和２年 新年にちなんで ―

（「人口推計」から）

子年生まれは 1062 万人
新成人は 122 万人

総務省統計局では，新年を迎えるに当たり，令和２年１月１日現在における「子年生まれ」の人口と「新成人」の人口を推計しました。

要　約

Ⅰ　子年生まれの人口は1062万人

○　男性は516万人，女性は546万人

○　平成20年生まれは最も多い昭和23年生まれの約半数

○　十二支の中では３番目

Ⅱ　新成人人口は122万人

○　新成人人口（平成11年生まれ）は122万人で前年比３万人減
男性は63万人，女性は59万人

○　新成人人口の総人口に占める割合は10年連続で１％を下回る

Ⅰ　子年生まれの人口は1062万人

男性は 516 万人，女性は 546 万人

令和２年１月１日現在における子年生まれの人口は1062万人で，総人口１億2604万人（男性6134万人，女性6469万人）に占める割合は8.4%となっています。

男女別にみると，男性は516万人，女性は546万人で，女性が男性より30万人多くなっています。（表１，表２）

平成 20 年生まれは最も多い昭和 23 年生まれの約半数

子年生まれの人口を出生年別にみると，昭和23年生まれ（令和２年に72歳になる人）が209万人と最も多く，次いで昭和47年生まれ（同48歳になる人）が200万人，昭和35年生まれ（同60歳になる人）が151万人などとなっています。最も若い平成20年生まれ（同12歳になる人）は108万人で，第１次ベビーブーム（昭和22年～24年）世代である昭和23年生まれの約半数となっています。（表２，図２）

十二支の中では3番目

総人口を十二支別にみると，亥年生まれが1135万人で最も多く，丑年（1077万人），子年（1062万人）などと続いています。（表１，図１）

表１　十二支別人口

十二支	人　口（万人）	総人口に占める割合（%）	人 口 順 位
総　　数	12604	100.0	－
子（　ね　）	1062	8.4	3
丑（ うし ）	1077	8.5	2
寅（ とら ）	1045	8.3	8
卯（　う　）	1028	8.2	10
辰（ たつ ）	1044	8.3	9
巳（　み　）	1049	8.3	6
午（ うま ）	995	7.9	12
未（ひつじ）	1055	8.4	4
申（ さる ）	1049	8.3	6
酉（ とり ）	1012	8.0	11
戌（ いぬ ）	1053	8.4	5
亥（　い　）	1135	9.0	1

図１　十二支別人口

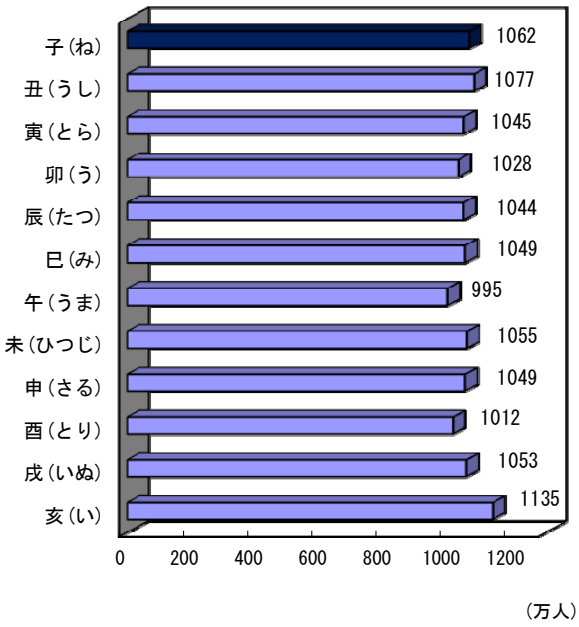


図２　男女，出生年別子年生まれの人口

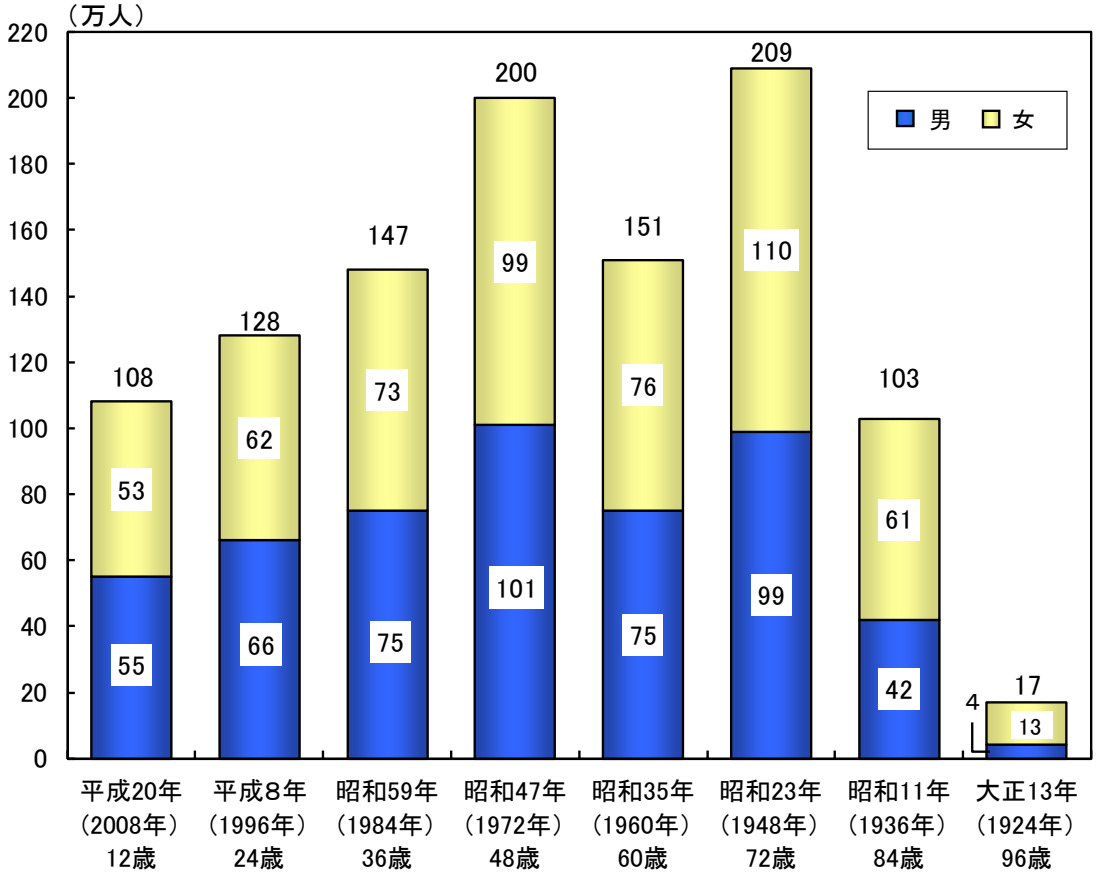


表２　男女，出生年別子年生まれの人口

生まれた年・年齢			男女計（万人）	総数に占める割合（%）	男（万人）	総数に占める割合（%）	女（万人）	総数に占める割合（%）
総　　数		―	1062	100.0	516	100.0	546	100.0
平成20年	(2008年)	12歳	108	10.2	55	10.7	53	9.7
平成８年	(1996年)	24歳	128	12.0	66	12.8	62	11.3
昭和59年	(1984年)	36歳	147	13.9	75	14.5	73	13.3
昭和47年	(1972年)	48歳	200	18.8	101	19.6	99	18.1
昭和35年	(1960年)	60歳	151	14.2	75	14.5	76	13.9
昭和23年	(1948年)	72歳	209	19.7	99	19.2	110	20.1
昭和11年	(1936年)	84歳	103	9.7	42	8.0	61	11.3
大正13年	(1924年)	96歳	17	1.6	4	0.7	13	2.4

＊　数値は万人単位に四捨五入してあるので，内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
＊　割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。
＊　図及び表中の年齢は，令和２年に誕生日を迎えた時の年齢
＊　十二支別人口は，12月末までのデータにより推計した１月１日現在人口のため，
　　令和２年生まれの子年の人は含まれない。

Ⅱ　新成人人口は122万人

新成人人口（平成 11 年生まれ）は 122 万人で前年比3万人減
男性は 63 万人，女性は 59 万人

この１年間（平成31年１月～令和元年12月）に，新たに成人に達した人口（令和２年１月１日現在20歳の人口）は122万人で，前年と比べると３万人の減少となっています。

男女別にみると，男性は63万人，女性は59万人で，男性が女性より４万人多く，女性100人に対する男性の数（人口性比）は105.8となっています。　　（表３，図３）

新成人人口の総人口に占める割合は 10 年連続で1％を下回る

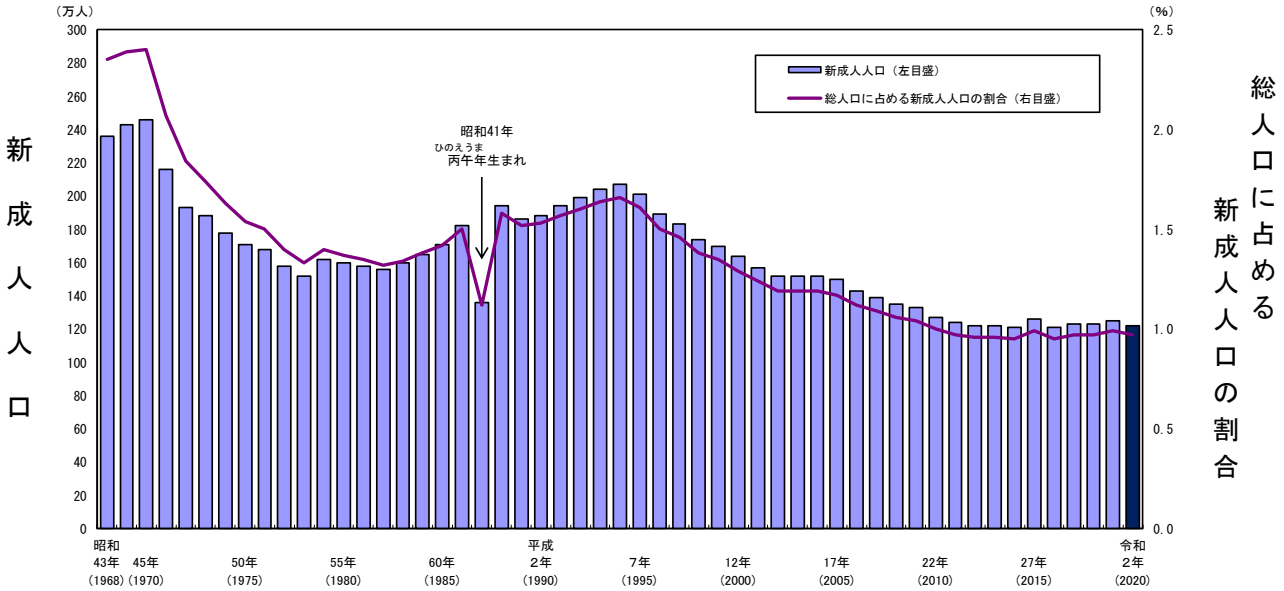
新成人人口について，この推計を開始した昭和43年からの推移をみると，第１次ベビーブーム（昭和22年～24年）世代の昭和24年生まれの人が成人に達した45年が246万人（総人口に占める割合は2.40％）で最も多くなった後，減少に転じ，53年には152万人となりました。その後，昭和50年代後半から再び増加傾向を続け，第２次ベビーブーム（昭和46年～49年）世代の人が成人に達した時に200万人台（最多は平成６年207万人）となった後，平成７年に再び減少に転じて以降は減少傾向を続けています。

表３　新成人人口の推移

年次（西暦）	新成人人口（万人） 男女計	男	女	総人口に占める割合（%） 男女計	人口性比	年次（西暦）	新成人人口（万人） 男女計	男	女	総人口に占める割合（%） 男女計	人口性比
昭和43年（1968）	236	119	117	2.35	101.6	平成７年（1995）	201	103	98	1.61	105.6
44（1969）	243	123	121	2.39	101.9	８（1996）	189	97	92	1.50	105.3
45（1970）	246	124	123	2.40	101.0	９（1997）	183	94	89	1.46	104.7
46（1971）	216	110	106	2.07	103.9	10（1998）	174	89	85	1.38	105.0
47（1972）	193	98	96	1.84	102.0	11（1999）	170	87	83	1.35	105.2
48（1973）	188	94	94	1.74	100.8	12（2000）	164	84	80	1.29	105.4
49（1974）	178	89	89	1.63	100.6	13（2001）	157	81	77	1.24	105.3
50（1975）	171	87	84	1.54	103.6	14（2002）	152	78	74	1.19	104.7
51（1976）	168	86	83	1.50	103.7	15（2003）	152	77	74	1.19	104.7
52（1977）	158	81	77	1.40	104.5	16（2004）	152	78	74	1.19	104.7
53（1978）	152	77	75	1.33	102.8	17（2005）	150	77	73	1.17	104.9
54（1979）	162	82	80	1.40	103.3	18（2006）	143	73	70	1.12	105.0
55（1980）	160	81	78	1.37	103.9	19（2007）	139	72	67	1.09	106.4
56（1981）	158	81	78	1.35	104.3	20（2008）	135	69	66	1.06	105.2
57（1982）	156	80	76	1.32	104.5	21（2009）	133	68	65	1.04	104.9
58（1983）	160	81	78	1.34	104.2	22（2010）	127	65	62	1.00	104.7
59（1984）	165	84	81	1.38	104.3	23（2011）	124	63	61	0.97	104.2
60（1985）	171	87	83	1.42	104.8	24（2012）	122	62	60	0.96	104.9
61（1986）	182	93	89	1.50	104.2	25（2013）	122	63	59	0.96	105.4
62（1987）	136	70	66	1.12	105.7	26（2014）	121	62	59	0.95	105.1
63（1988）	194	99	95	1.58	103.9	27（2015）	126	65	61	0.99	105.5
64・平成元年（1989）	186	96	91	1.52	105.3	28（2016）	121	62	59	0.95	105.1
						29（2017）	123	63	60	0.97	105.8
２（1990）	188	97	92	1.53	105.5	30（2018）	123	63	60	0.97	105.5
３（1991）	194	99	94	1.57	105.4	31・令和元年（2019）	125	64	61	0.99	105.5
４（1992）	199	101	97	1.60	104.2						
５（1993）	204	104	99	1.64	105.0	２（2020）	122	63	59	0.97	105.8
６（1994）	207	106	101	1.66	105.0						

令和２年の新成人人口は 122 万人，総人口に占める割合は 0.97％で，前年と比べ３万人減，0.02 ポイント低下と，ともに４年ぶりの減少・低下となりました。また，総人口に占める割合は 10 年連続で１％を下回っています。　（表３，図３）

図３　新成人人口及び総人口に占める割合の推移



＊　「人口推計」（各年１月１日現在）
＊　数値は万人単位に四捨五入してあるので，内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
＊　割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。

国勢調査は 100 年になります

【解説】

令和２年（2020 年）に実施する国勢調査は、大正９年（1920 年）の調査開始から 100 年を迎え、節目の調査となるため国勢調査 100 年記念ロゴマークを作成しました。

このデザインは樹齢 100 年のケヤキの木をモチーフに、国勢調査の実りが表現されています。ケヤキは樹齢 1500 年にも達する樹木であり、これからも連綿と続く日本の未来を表しています。

利用と問合せについて

◆ 「**人口推計**」の詳しい結果を御覧になる場合は、次の URL を参照ください。

https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html

人口推計　検索

◆ このトピックスは、次の URL から御覧になれます。

https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi1220.html

◆ このトピックスに掲載されている解説文、図等の情報を引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。

（例）「人口推計」（総務省統計局）

【問合せ先】

総務省統計局

総務省統計局 統計調査部 国勢統計課 人口推計係

〒162-8668　東京都新宿区若松町 19 番１号

ＴＥＬ　：　03（5273）1009

ＦＡＸ　：　03（5273）1552

Ｅメール：　c-suikei@soumu.go.jp